

街ぐるみの 共生政策 をつくる

～バルセロナとビルバオの「反うわさ戦略」から～

「多文化共生」を、もっと無理なく、戦略的に。

どこで誰と暮らしていても、摩擦や戸惑いは生じるものです。大切なのは、それを「問題」として遠ざけるのではなく、新しい関係性を築くためのポジティブなきっかけへと反転させることかもしれません。南欧のバルセロナやビルバオでは、正論で相手を論破するのではなく、日常の対話を通じて偏見やステレオタイプを学びほぐす「反うわさ戦略」が実践されています。これまでの「一部の人が頑張る共生」の限界を乗り越え、誰もが自然に馴染める社会の仕組みをどうデザインするか。南欧のフィールドワークで見つけた、街をアップデートするための「しなやかな戦略」を皆さんと共に考えます。



うえの たかひこ

上野 貴彦さん 都留文科大学 准教授

1990年生まれ、多摩地区育ち。南欧のバルセロナやビルバオにおける移民・マイノリティ政策、とくに住民間の偏見をきっかけに地域の社会関係を紡ぎ直す「反うわさ戦略」に関心を持ち、2014年からフィールドワークを重ねている。また、こうした知見を活かし、日本各地の自治体やNGO、市民団体と連携したワークショップを通じた「当事者にもマジョリティにも届く多文化共生」の可能性についても模索している。主な著書に『多様性×まちづくり インターカルチュラル・シティ』（共編著、2022年）、『インクルーシブ・コミュニティ まちの包容力を高める都市政策の実践』など。

5月21日(木)

5限

16:00～17:30

場所: ボランティア活動スペース (VOLAS) 研究講義棟206-1

対象: 東京外国語大学 学生のみなさん (@tufs.ac.jp のアドレスが必要)

申込: <https://forms.gle/5meLdtLZ5T5V81BV9>

申込締切: 5月20日(水) 12:00

